夕刊 磐城新聞
十月二十七日發行
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八五五六五番
發行所 磐城新聞合資會社

天氣豫報 小名濱測候所發表
今晩は北の風晴
明日は南東の風晴
後薄曇

明るみに出る迄

磐城訓盲院中等部四年　松本七之助

下

そして盲人にも盲人としての使命の存することに想到して茲に新しい人生のスタートを發見することが出來たのであります

ゲーテは人生を人生そのものだと申しました。私は此のゲーテの言葉の裡に盲人は盲人であることを自覺せよといふ餘韻を開きました、そして自己を盲人であると肯定し得た時盲人としての使命の存することを知り、そこに今まで悟り得なかつた安心、希望、喜びの新しい人生が私を待つて居ることを發見したのでありました、實に此の自覺こそ私を暗の世界より光明の世界へ救ひ得た唯一の救命劑でありまして暗黒をのみ悲しみ肉眼の光明をのみ戀ひ慕つて徒らに煩悶するが如きは人生の眞義に徹する所以でないのであります

見よ先頭來朝された聖女ヘレンケラーを女史は單に視覺のみならず聽覺をさへも缺いて居ながら其の偉大なる自己を偉大なる事業を完成して今世紀の奇蹟的存在であると世人を驚歎せしめて居ります、何が女史をして今日あらしめたのでせう、若し女史があの樣な不具者でなかつたとしたら斯くまで世人を驚倒せしめることが出來たでせうか、斯く觀じ來る時女史が不具者であつた事が女史の爲めに寧ろ喜ぶべき事なのであります

徒らに身の不遇をかこつを止めよ、徒らに逆流を悲しむ勿れ、不遇は幸運逆境は順境への門戸であり不遇は幸運への扉である。叩け扉を開け門戸を明るき世界は其の彼方に汝を待つてゐるのだ

今や皇軍は萬里故國を離れて支那の天地に奮戰力鬪至る處に凱歌を揚げて我國威を內外に發揚して居りますがこれ實に支那の世界平和を亂す容共排日政策を打破して東洋を明るき平和の天地たらしむる爲めでありまして間もなく支那は皇軍の奮闘によつて樂土を建設する事が出來るでありませう、さはれ我が勇猛果敢な皇軍の勞苦を思ひ奮戰振りを偲ぶ時、此見えざる眼にも感激の涙を禁し得ないのであります、私の全身の血は湧き肉は躍つて居ります吾々は不幸にして戰場に働くことは出來ませんが、吾々にも吾々に與へられた使命があるのであります、吾々は吾々の使命を完ふし銃後の國民として大なる責任を果して皇軍と共に東洋をして光輝ある平和の樂土たらしめ以て無窮の聖恩に對へ奉らんと期するものであります

温泉宿の朝

野毛正夫

娘、たくのか
竈の煙り
細々のぼり
消えて行く

風もないのに
この胸に
微温のこもる
温泉の匂ひ

娘、焦さず
姿を見せな
發足ちやならない
この身体

萩の雨

丘茅花

（上）

○日章旗立てじニュースや秋風に
○長城に湧く雲秋の色と云ふ
○千人針立ち縫ふ町のつぐ〳〵師
○出征旗名のさはやかさ花稻に
○夕顔の花揺ぎして今開らく

10月28日

△萩の亂（明治九）△濃尾大地震（同二四）△全國中等學校相撲大會で個人試合は此花商業中尾君團体は御影師範優勝（昭和一〇）

若松驛頭書年

珠雲　小野務中

語雖粗放意偏溫
驛路猶看士俗敦
市井雖無輪奐美
名俠風尚到今存

偶感

語妻生

上

新・經由して、今、富山に近づきつゝあると、たより來たのが昨朝だから、就に、船に乘込むだかもしれない弟は召集令狀をうけとつた、朝早く、先づ僕に通知してくれた。當然、來ると確信してゐたものが來たのだ

その覺悟の爲めか、滿洲事變で體驗した爲か、性格にもよる事か、とにかく平然としてゐるのが弟ながら感心した

今日は仕掛けてある仕事のきまりをつけませう。と言つてくれた。これには感激せざるを得なかつた。僕は弟の心盡しに甘えて仕事して貰つたのだつた

いよ〳〵出發のときが來て僕は途中まで送る事にした

汽車らごくおどるよおどる

日章旗萬歳萬歳萬歳萬歳

車中で初めて、歡送の熱情にこめられた、國家意識の熾烈さを痛感した。ヒツトラーがユダヤ人を排斥して狂氣沙汰として世界中の嘲笑に目もくれず焚書してまで欲しかつたのは、この純潔だつたのだらう

故郷を離れて、初めて弟は大にやりますと云つた。歌の方も缺詠しないと言つた戰地では萬葉集一冊の外他書に目をくれない覺悟だとも言つた

講談 悲戀 髑髏組（どくろぐみ）

林杢兵衛作　金子士郎畫

（30）砺みの刄（一）

藤三郎は靜かに近寄つた

『許す許さぬもないこれ！きのこと叱りはせぬ、そのために他の者にも知らさず拙者と父上で窃かに連れに參つたのぢや』

『でも、これには深い譯のあること、どうぞ此のまゝお許しなすつて下さいまし！』

おろ〳〵聲で哀願をする幾代の聲を

『いや、それはならぬ』

と表から制してのつそり這入つて來たのは藤左衞門だ

『譯があるなら、邸へ歸つてから聞かう。その上にて不緣のものなら丁字屋へ歸しもする。自分勝手に左樣な振舞は斷じて許さぬ』

傲然と云ふ藤左衞門だ

『井筒の旦那樣。誠に申譯のないことで御座りますが幾代樣には手前からよくお聞か[illegible]申しまして、後程必ずお邸までお連れ申すことに致します。どうぞ此の場はお引取の程を……』

幾代を背後に庇ひながら甚兵衞が堪りかねて哀願さした

『默れ！不屆者め、其の方になんの關りがある。餘計なところへ出應張ると許さんぞ』

藤左衞門はずか〳〵と進み寄つて邪慳に甚兵衞の胸をトンと突き退け、逃んとする幾代の手を摑んで引き寄せ、藤三郎の方へ押しやつた

『世話を燒かさずと歸るんだ』

『どうぞお許し下さいまし！』

懸命に振り解かうと藻掻く幾代を

『わゝ煩さい！』

と藤三郎が表へ引出した

後一重で固唾を呑む刑部は幾度か飛び出して幾代と甚兵衞を援助しやうと氣構へたが、躊躇しなければならない代官殺しの兇狀持、それと今一つ

（井筒親子も、代官倉持と同じ結果に陷るやうなこともあれば、それこそ幾代とも〳〵身の破滅）

それを豫期すると先づ出來得る限りの我慢をしなければならなかつた

だが、甚兵衞は土地に突き倒された幾代は連れ去られんとしてゐる。もうこれ以上たゞ忍ぶことの出來ない刑部

『暫らく……』

と、襖開けるももどかしく足早に、歸り足の藤左衞門の前に立ち塞つた

『卒爾ながら拙者、幾代殿とは少しく緣のある者で御座るが、那がる者を左樣無理にお連れなさらずとも此の場でとくとお話合になつては如何で御座る』

藤左衞門は怪しむやうに刑部の足許から見上げて

『貴公、幾代とは何んの緣があるか知らぬが、左樣な指圖は御無用ぢや』

と相手にならず、輕く前を押し退けて去りかけるの

『いや、暫らく……』

刑部は再びその行手に立ち塞がつた

『諄い！』

と、たゞ一言、癇癪聲と共に、今度思ひ切り强く刑部の胸を突き刎ねて

『貴公、大方素浪人の淺ましさに、金でも欲しい所存で御座らう』

『何んと？』

刑部は、危く倒れさうになつた身を辛くも支へて血相を變へた

『金が欲さに拙者が幾代どしを瞞したとでも云はれるか？』

『そうでなければ、貴公の仕合せと云ふまでぢや』

藤左衞門は嘲るやうにへん！と鼻の先で薄ら笑ひ

『若しまた、さうなら金持の百姓娘でも漁らつしやいと云ふことぢや』

『無禮な過言！』

刑部は、バッサリと拔き討ちに、その惡たれ口を。縱に斬り割つて呉れやうか――ときへ思つたが、一度は幾代のために、それを抑制しなければならなかつた

『ほゝう、貴公刀の柄に手をかけて、此の井筒を斬ると仰ふのか？。面白い、痩浪人の刀錆で、美事斬れるならばお慰みぢや』

『何に？ 御所望ならば。痩浪人の錆刀白髮首へ御見舞申すが受けられるか？』

刑部の片頰に凄い笑ひ、ニッと笑へば人を斬る――彼の手口を知つて居る幾代

『お待ち下さい刑部樣』

斬るな？――と思つた瞬間、幾代に代つて甚兵衞が背後から心死になつて抱き止めた

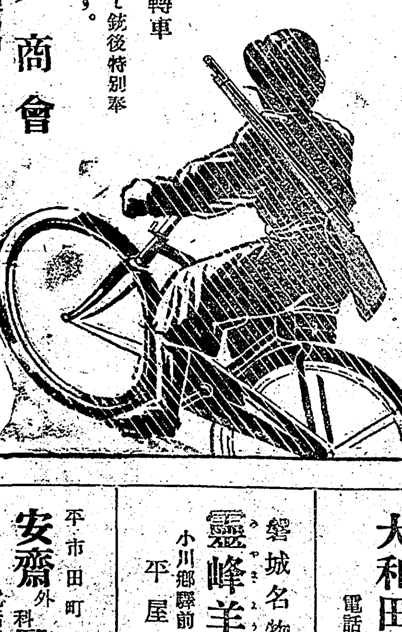
銃後の活躍に

絶對無故障

フタバの
リヤカーと自轉車

只今製造工場と協力して銃後特別奉仕大特賣會を開催中です。

フタバ商會
平市。新川町。郵便局前



恐るべき中風、腦溢血を豫治せしむる

アイヨー錠

血壓を下げ、血管若返り、中風を全治し、早老及老衰を豫防す。
中風の原因は血管の硬化にあり血管硬化すれば血壓高まり精神的並に肉体的に退行現象を生じ所謂老年病を誘發し或は中風腦溢血を突發す。
アイヨー錠の應用は血管に若返り現象を與へ老衰の進行を緩徐ならしめ初老及中老期に隨伴する總ての不快症を除去し中風を豫防す。
動脈硬化症、高血壓症、初老期に於ける体力及精力減退、中風、腦溢血の豫防に常用すべき貴重藥

百四十四錠（八日分）貳圓　四百八十六錠（廿七日分）六圓
千八百錠（百日分）貳拾圓

專賣店　山野邊藥局　平市五丁目（電呼六六八）

大和田醫院　電話一七〇番

磐城名物　靈峰羊羹（れいほうようかん）　小川郷驛前　平屋賣店

安齋外科醫院　平市田町　電話五五九番

日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社石油特約店
關彰商店平支店　電話六一一番
本店　水戸線下館驛前（電話五五・三三九番）

營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、マシン油、モビール油、機械油類、植物油、胡麻油、種油、タール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ

支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三）
常磐線關本驛前（電話八二四）
常磐線四倉驛前（電話平潟五四）
常城線久慈濱支店（電話四八）
小名濱支店（電話一三七番）
海上給油所及油槽所　大津　平潟　江名　濱

東北產多產系種狸、獨乙系ゲーシン、フェッチ
チャーマン種山羊分讓
土地建物
電話金融
種狸分讓
福島縣平市稲槌小路壹番地
乾產業合資會社　平　電五五五番

病室增築、手術室完備
產科 婦人科　醫學博士　五十嵐雄二
往診隨時　平市新川町「電話三六九番」

晝夜診療
外科一般　內臟外科
レントゲン科　泌尿器科
北川外科
（血液檢査每日）平市新川町（電四六四）
イツデモ入院デキマス。
醫學博士　北川芳夫
技師　三浦常保

科外生募集
邦文タイプライター科
（時代の尖端を行く現代婦人の職業）
入學は每月―隨時　卒業期間―五ヶ月
器械使用材料費―月金參圓五十錢
☒卒業者の就職照會は各方面と連絡を有し斡旋致します
洋裁科　躍進日本婦人の家庭職業
入學は每月―隨時　卒業期間―本科一ヶ年
速成科―六ヶ月　月謝（ミシン使用料共）金三圓五十錢　外に裁斷科三ヶ月卒業の設あり
（細目表一部分拔萃）基礎縫、割烹着、寸法取り方、原型割出、ブルマー、スリップ、エプロン、コンビネーション、ロンパース、簡單服、セーラー、シユミーズ
入學の資格（兩科共）高等女學校、實科女學校を卒業したるもの、本校本科を卒業したるもの、其他本校に於て相當と認めたるもの
文部大臣認可　平陽女學校　平市　電話四五五番

應召軍人
防寒用防彈チヨッキ
純眞綿製品
毛糸製品ヨリ安價ニシテ風ヲ通サズ保温最モ良ク最適品ヲ御勸メ致シマス。
平市二丁目　山家メリヤス店　電話六〇五番

夜間診療
內科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
胃腸病 性病 專門
（見習看護婦募集）
松村胃腸性病科醫院（平市南町 電一〇七番）

生花教授
池ノ坊
お遊びがてら御出で下さい。生花を懇切丁寧に御教授いたします、
平市四丁目和泉屋旅館　須藤まつの

銃後を忘れぬ程に！招く幽境川前の紅葉
淸澄＝軍國の秋漸く酣

露の葉芋、風の穂芒。藥水岡に泌む瀟條の秋は彌々閑けて、時節柄前線銃後何れ劣らぬ國民の赤誠を象徴するかのやう、正しい四季の運行に附近の山々は今年もそろ／＼紅葉し初めて來た。此の世柄に暢氣な遊山談議でもないが、銃後の緊張を破らぬ程度の探勝なら、却て一脈淸新の英氣を養ふ上に於て満更許されぬ事でもあるまい。恰も好季、天候もどうやら秋霖を脫して一碧の空飽く迄高く身神頓に快適なるの時、神斧鬼鑿の峻嚴に銀屑淙々として走る淸流を點景し秋陽に映發する滿山の紅葉に繪の様な四邊の山容水態を滿喫するもまた簡單素朴別に非難さるゝ程の行樂沙汰でもあるまいとされてゐる

受驗準備本格的
第一で摸擬試驗の皮切り

學期が漸く後半年に入ると共に市內四小學校の受驗準備は當局に於て種々試驗地獄の緩和策が考慮されて居るとは云ふものゝ逐日眞劍味を加へ、最後のゴール入りに萬遺憾無きを期して居るが殊に今年度に於て商業學校への合格率に就き些か豫期に達し得なかつた第一校では捲土重來の張り込みで兒童の智力体力に對應し緩急宜しきに適した準備を進めて居り、過般受驗界當に對し第一回の模擬試驗（算術、國語、國史）を行ひ昨二十六日その成績を各家庭に通知したが今後も每土曜日を期し同樣執行する方針であると

學校で床屋さん
散髮料から國防献金
磐中の銃後作業

磐中では畿に若干の醵金により全校生徒に對する銃後心の高揚に資する處あつたが今回更に前線將士の勞に酬ゆる覺悟を振起せしむる趣旨に基き勞働奉仕の意義を體驗させる爲作業科の一部として理髮道具を取り揃へ一回五錢で出來得る限り多數生徒の理髮を行ひ事變中國防費として献金する事となり昨二十六日各生徒家庭に諒解を求める處あつた

船員大量募集
海事協同會から

平、小名濱に依賴

海事協同會から平職業紹介所並に小名濱町當局へ船員の大量斡旋方を依賴して來た

明年三月末までに各地から高級、普通各船員八千名を募集せんとするもので近く前記協會から船員及職員が來郡、種々募集上の打合せをなすと、紹介所では直に管內各町村に通牒を發してこれが受付けを開始したが希望者は詳細同所で問ひ合せの上申込めばよいことになつてゐる

毎月一回『平市報』を發行
市役所の新しい試み

市役所では今後毎月十五日に『平市報』を發行すべく目下準備を進めてゐる

揭載事項は規則　告示　告諭　廳達　辭令　廳中事項　會議事項　一般通牒

これを左記方面に無料配布する

市會議員　小學校　區長　市農會　聯合分會　振興委員　商業學校　商工會　聯合青年　消防　方面委員

巡查第二次合格者

本縣巡查採用試驗第二次合格者地方關係左の如し

平市　大河原文雄　上遠野村　新谷至誠　江名町　遠藤孝　山田村　小野原

沸る愛國心

市內大室字白士三七松崎チカ(四七)さんは女世帶で皇軍の第一線に立てないのが殘念であると此程同村地內夏井川改良工事に出役、その賃銀中十五圓は國防費へ、五圓を國防婦人會平支部第四分會基金として寄附

○

市內八幡小路磐城家政學園愛國處女團では千人針二十枚を市役所へ

○

二十五日市役所へ『一婦人から』との匿名で金五圓寄託

○

平第二校六年二組宗像カネ子、鈴木律子、佐藤由利子さん達は慰問袋一個

慰問袋の山
磐炭から二百五十

磐城炭礦職員一同は慰問袋二百五十個を作製二十六日內郷村役場へ寄託

。。慰問袋　市內才槌小路小松洋服內吉田六さんは二個

第二小學校六年二組伊東直子、柴崎俊子、大久保善子、野崎良子、飯沼俊子、蛭田マサ子、水野智惠さん達で二個の慰問袋を市役所へ

陣中を聽く
―７―
池中は敵屍累々と鬼氣迫る宿營附近
市內二丁目出身　關原司君通信

ここに着いて先づ目につくものは皇軍の苦戰とわが空爆の正確とであります。附近の建物はその外形を止めて居るに過ぎません。我々の宿營した處は〇驛近くの〇〇と云ふ公園の中でした此處は支那の保安隊の居つた處で吾軍の總攻擊を受けた處であります、附近を續る池の中には未だ敵死体があり附近一帶は屍臭紛々として居ります、市內は我軍の警備により治安は以前に復したとは云へ殘兵や不穩分子の潛行で未だ尙は危險であります（中略）十二日そこを出發十四日〇〇に到着致しました、ここは過ぐる日〇〇部隊が苦戰の結果飛行隊の爆擊により遂々占領したと云ふ激戰地で兩方(東北)岩石ばかりの岩山に包まれ、守るに易く攻るに難しと云ふ堅固なる陣地であり（中略）鐵道はこの山の眞ん中を通り（中略）十八日こちらの〇〇縣城に到着、だん／＼戰線近くなつて居りました。兵隊の出入りも激しいです

新聞を見ないから外國關係等もどうなつて居るかわかりませんが、支那近海は完全に海軍の爲文通の途は絕たれまた陸軍は我軍の爲袋の鼠となり糧秣及び彈藥の補給は皆無と云つてもよい位です。保定の占領を終り現在〇〇縣と云ふ處を攻擊中です、此所は〇〇以上の堅固な陣地にて地上は〇〇砲を以て攻擊するそうです（後略）九月二十日

經更指定村協議會

郡下經濟更生指定村協議會は來月十日午前九時半から好間小學校に開き町村長、勸業主任、振興委員、技術員、國防婦人會男女青年團幹部等が出席、時局に關し協議する

。。。。中町地內往來止　市內中町地內市道延長廿七間は公會堂建築工事のため來る廿八日より五ヶ月間往來止め筈

投槍
投書歡迎

。。。。。。歡送の服裝に就て

◇暴支膺懲の爲敢然銃を執つて出征する勇士を歡送する青年團始め國防婦人會其の他の諸團體で驛頭は連日賑やかになり、勇士の意氣を鼓舞することは誠に嬉しいことだ

◇小生男子なる故婦人のことには何んの彼んのと言ふ權利も必要も無いが然し一部婦人の服裝に就て少し言つて見たい

◇元來何々婦人會と言ふのは讀んで字の如し、而して質素を旨とすつてな譯で出來たのではないかと思ふ、然るにあの眞新しい眞白なエプロンを着て、ピカ／＼光る立派な着物を着ておめかしこみ日章旗を振つてゐるのは

◇女は身嗜みが大切なりと言ふが、其れは程度問題で時恰も國民精神總動員の折、淑女諸君は良く自覺せられたい。質素な服裝即ち普通着に洗つた白いエプロン姿(台所姿)で良い、立派な着物を着て完全な任務が遂行出來やう筈がない

◇若しも此の平市が敵機の爲空襲を受けたとした場合、淑女諸君は『それつ』とばかり顏に白粉を塗り新しい着物、エプロンをつけ自分の職責を果すのであらうか！の感無きを得ない（一驛員より）

弟を身代りに！
負傷後送を殘念がる
箕輪出身の吉田修一君

箕輪村大字高野學務委員吉田榮氏二男修一君(二六)は紅

叶はぬ再起に
淚の勇士

顏十九歲から艦上で鍛へ上げた勇士で過般來上海戰線に活躍中去る十三日〇〇に於て敵の機關銃を攻擊すべく陣地構築作業中敵機銃の爲右肩に貫通銃創を受け最寄治療所に收容治療を受け少康を得たので再び出陣を願つたが許されず此程某所に後送されたが同君は之が口惜しくてならず『〇〇艦に乘つてゐる弟光を自分の癒る迄交代させて頂かねば國の爲銃後の皆樣に申譯が無い』と述懷の手紙を此程父君に寄せて來たと

。。。。永山さん入賞　澤渡村青年學校本科生永山ユキさんは二十四日福島師範で行はれた縣下青年學校生徒實習第三回大會の珠算競技に出場第二位に入つた

がある

。。。。。。澤渡青年農事視察　澤渡村青年團幹部一行は此程中遠地方の農事視察を行つた

。。。。。。神谷農事實組長會　神谷村農事實行組合長會議を二十九日午後二時から開き郡農會から技師出張講演する

小松元磐中敎官　元磐中体操敎官本郡鹿島村御代出身小松武勇氏は昭和九年より滿洲國軍人となり最近國境監視中隊長から某地軍法所に轉勤したが去る十五日永眠したと

。。。。石城對多賀陸上　石城オール敎員對多賀郡の陸上競技會を來月二十一日茨城縣松原町で擧行

鈴木一等兵(小川)戰死
元氣な便りご前後し
きのふ原隊から入電

下小川村下小川字前原一〇〇看護兵一等兵鈴木一生君(二六)は田代部隊に加はつて奮戰中重傷遂に死亡した旨廿六日原隊から發表された　寺町六八の實家には母なつさん(六〇)をはじめ多數の家族がある

○

鈴木一等兵はミネ(四六)さんの長男、滿洲事變の戰士で勳八等を持つてゐる　豐間村豐間字柳町に妻女カネ(三五)さんがゐる市內白銀町一五加藤營業所々員鈴木浪吉(六五)氏が同君の祖父に當り、鈴木一等兵は出征前まで豐間で盛職を行つてゐたもの

祖父浪吉氏は『勝氣な子でしたが……』と次の如く語つてゐた

陣中からの手紙が二十五日に豐間のカネの許へ屆いたのでみんなで氷砂糖や煙草等を送らうと思つてゐたところでした、も少し御國のために働かせたかつたです

遠藤二等兵戰死

湯本町八仙工兵二等兵遠藤保治(三二)君は二十三日北支〇〇方面の戰闘で名譽の戰死を遂げた旨二十七日入電あつた、保治君は宮城縣出身、入山炭礦六坑に勤めてゐた模範坑夫であつた、家族は妻ウメ(三〇)さんとの間にトキ(八)フミ(六)リュウ(三)清臣(一)の一男三女

米山一等兵は
昭和人絹社員

上海戰線で名譽の戰死を遂げた兩角部隊一等兵米山藤一郎君は出征前は錦村昭和人絹會社に勤めてゐた人、獨身、柔道四段の猛者で若松市桂林

これも時局の反映
結婚屆インフレ時代
市役所の統計を観る

時局が反映した質素第一主義の『結婚シーズン』は昨報の如く吳服屋も料亭もバサツ！としたものだ、表立つた披露式をないので『今年は一体婚禮が少い……』と云ふやうな感を抱かしめてゐるが、市役所が取扱つた『婚姻屆』はどうして〳〵。今年一月以降の分を見ると

一月二八　二月二六　三月三三　四月一八　五月一七　六月二三　七月二六　八月四四　九月五三

で去月分などは去る一月の約二倍と云ふ結婚屆インフレ？に係員は『これも時局の反映でせう……』と語つてゐる今月もはや五十件近くに上つてゐると云ふ

二十八日（小名濱潮候預報）
滿潮　前一一、〇〇　後〇、二〇
干潮　前四、四〇　後六、一〇

線路に石ころ
列車妨害告發さる

平保線區主任日々野武雄氏は二十六日平檢事局に列車妨害の告發をなした事件は去る八月湯本驛方面で鐵道線路に石塊を積み重ねて妨害をはかつた事實があるが犯人は未だ判明しない檢事局では直に中里檢車係りで取調べを開始した

至急募集

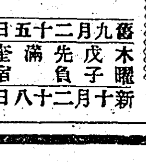
工場員　給仕　各一名

小學卒業程度にして市內居住者、希望者來談あれ

磐城新聞社

湖月へ新妓　湖月から身に叶ふ相談なら、客のおつしやる事は何でも『菊枝』と云ふ心掛けの良いのが今日お披露目した

諸判定應需　東京市本鄉區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠館



舊九月二十五日　戊子　先負　滿　奎宿
新十月二十八日　木曜

▲一白　運氣猶不安に引込まるゝ如く成就覺つかなし▲二黑　須ろ優勢なる氣運に會し向上發展の大吉日▲三碧　諸事用心緊固なれば益々繁榮を來すべき日▲四綠　格別の努力を致さざるも自ら進展する吉日▲五黃　志望計畫次第に成功に近づき喜び眼前にせまる▲六白　一時しのぎの業務より永遠の計をたつべき日▲七赤　理想のみ高く大計畫を目論見て失敗を招く▲八白　窮地を脫して安全地に避けん前途平たんなり▲九紫　不安に者へす我力相當に事を殊るに宜なり

最新式穴の傷まぬ　洋式ドンコ　帳簿　一圓、一圓八十錢　二圓五十錢
デリカ切拔き　書く手間が要らぬ　住所錄（入名簿）　二〇〇名、三〇〇名　五〇〇名、一千名、各種
魁文堂　電話313番

廣告

六丁目　木村外科醫院　電話三〇九番

松村醫院　院長　松村鐵郎　平市南町　電一〇七

月末特賣　十月卅一日まで
（特價品）

ネルコンビネーション	四五才六〇才	四〇錢均
子供エプロン	一五	均
子供メリヤス	三〇	均
毛子供セーター	一五〇	均
毛子供レツキング	一〇〇	均
厚地本毛都	一七〇	均
中折帽子	八〇	均

其他間屋の半ば物大見切提供
福助足袋お買上の方に　活動寫眞招待券進呈

大黑屋　電611

パーマネント―マシンの設備
※非常時に備へる　銃後婦人の途
それこそ一回の御手當で六ケ月を保つパーマネント……を！
△時間の經濟と能率增進……
△非常時にふさはしい御洋髮…
△洗髮も御任意のまゝ……
◎パーマネントは歐洲大戰以來の流行　御家庭の滿足も、美容の保全から生る
平市驛前　水野化粧院　主　水野冬子　電話一五二五　一六七八番

時代の要求　皆樣の足!!
尼子タクシーへも　豆タクが入りました。
御玄關から玄關へ……迅速簡便　是非御利用を……。
市內…三〇錢　市外…四割引
流線型セダン、大型貸切バス　宮行＝直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。
平市二丁目　尼子自動車商會　電話六四〇番

カメラ材料　藥品百貨　平電話3番　西村屋藥局